



2月園だより

令和6年2月1日
目黒区立大岡山保育園 園長

1月26日に乳児お楽しみ会（0、1、2歳児クラス）を開催し、地域の親子の方もお招きしました。初めに素敵なドレスの棒人形がバックミュージックとともにくるくる回りながら舞い踊ります。何人かの子どもはサテンの光っている素材のスカートが揺れると「おひめさまだ」「おうじさまだよ」と指さして言っています。次は子どもたちが知っている『はらぺこあおむし』の人形劇の演目となります。音楽も軽快でかわいらしい感じの曲が流れてくると自然に子どもたちは体を揺らしながら聞いています。『はらぺこあおむし』にはいろんな種類の食べ物が出てきますが、いちごが出てくると「やったー。いちご、いちご」と喜び大きな声を出して近くの保育士に伝えます。微笑んで相槌を打つと次の食べ物を食い入るように見えています。クライマックスで蝶々が出てくる時に何人もの子が「ちょうちょうだ」と賑やかな声を上げていました。最後は保育士の合奏『おもちゃのチャチャチャ』ですがその後2歳児クラスの子どもたちには、手作りマラカスを持ってもらい一緒にセッションを楽しみました。どの演目も子どもたちはキラキラした瞳で夢中になって観覧し、保育士たちも喜んでくれていた子どもたちに歓喜しました。

保育園では表現遊びがより豊かになるように絵本だけではなく、手作りの人形劇を通して児童文化に触れる機会を大切にしています。保育園は子育て支援を果たす役割もあり、地域の親子にも楽しんでいただけるよう保育園の門戸を広げています。



2月の予定

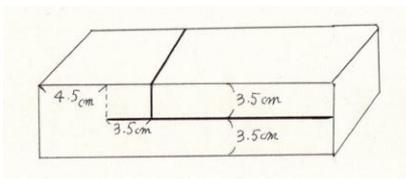
- 節分
- 2歳児クラス懇談会
- 0歳児クラス懇談会
- 4歳児クラス懇談会
- 1歳児クラス懇談会
- 中旬 身体計測、避難訓練

3月の予定

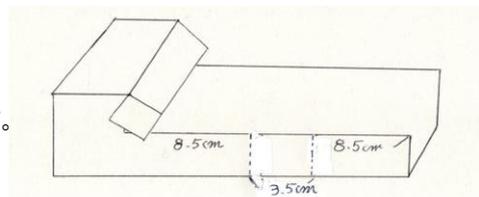
- 卒園式
- お別れ遠足 3, 4, 5歳
- お別れ会
- 中旬 身体計測、避難訓練

★おうちで簡単手作りおもちゃ《牛乳パックで作るトラック》

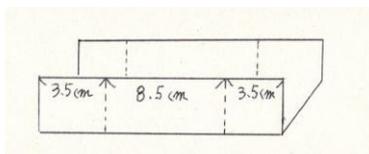
- ① 長さを図り、線を引いて切ります。
上部は荷台、下部はトラックの本体になります。



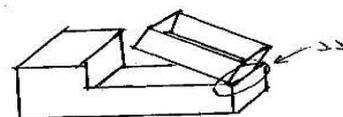
- ② 土台の切り込みの部分折って形を整えます。
空洞には新聞紙等を折って詰め込むとしっかりします。



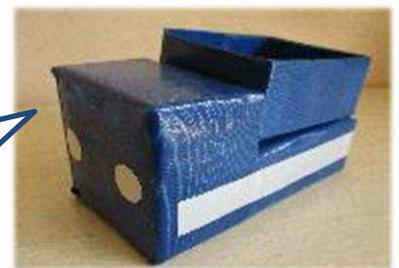
- ③ 荷台部分も切り込みを入れて折り、箱の形にします。



- ④ 荷台に箱をのせ、後ろの部分をテープで接着します。



- ⑤あとは好きなカラーガムテープで装飾をしてできあがりです。*さらに詳しい作り方用紙もありますのでお声かけください





子どもたちが夢中になっている遊び



0歳児クラス（いちご組）

ある子がお椀に入れたお手玉をつまみ、保育士の口元まで手を伸ばして食べさせようとしてくれました。「ありがとう、いただきます。」と食べる真似をすると満面の笑顔です。その様子を見ていた子がそばに来ると、その子にも食べさせようとお手玉を口元に持っていきます。「あら、友達にもごちそうしてくれるの？」と話すと、その子が小さく口を開け「ぱくぱく」と食べる真似をしたので、二人は顔を見合わせ嬉しそうに笑っていました。その後も、友達の着ていた洋服に熊の絵柄が付いていたのに気づき、熊にも食べさせたり、服の絵柄から室内にある熊のぬいぐるみを思い出して、熊の人形にも食べさせたりとままごとのような遊びを楽しんでいました。

保育士の声かけに仕草で応えようとしたり、保育士が発する言葉を真似しようしたりする姿も増えてきています。これからも子どもたちの大好きな遊びを通して、やり取りや見たて遊びを楽しんでいきたいと思えます。



3歳児クラス（さくらんぼ組）

園庭で遊ぶと、れもん組やぶどう組の遊びを見たり、教えてもらったりと刺激をたくさん受け、最近では氷鬼もしています。はじめは鬼になることが嫌でやりたくないという子もいましたが、「助けに来たよ」と、友達にタッチされると動けることを知り、仲間を助けたり助けられたりする楽しさが分かってきました。

氷になると動けなくなるはずが、「たーすけてー。ねえ、助けてよ」と言いながらちょっとづつその場から離れていき仲間に助けをもらうために走っていったり、タッチされる直前で「休憩」と言っつつかまらないようにしたりなどルールに縛られ過ぎずに子どもたちの発想で遊んでいます。保育士が鬼になって遊ぶ時もありますが、「おーにさんこーちら」「僕たち全然つかまらないもんね」と、特に保育士には強気な態度を見せてくるほど余裕が見られます。初心者ルールの中で友達や保育士とのやりとりを楽しんでいます。

園庭にでると「氷鬼しようよ」と友達と一緒に遊びたい姿がたくさん見られます。やりとりをしながら遊ぶことで友達関係も広がってきています。

5歳児クラス（ぶどう組）

ぶどう組では、自分の考えを伝えあいながら自分たちで遊びを作っていく姿が増えてきました。

ある日、園庭でドッチボールをしたい子が数名集まってどこで遊ぼうか考えていると、近くで鬼ごっこをしていた子どもたちが「ここでは狭くてできないよ」と言いました。ドッチボールグループの子は「でも、やりたいんだよ」と引きません。「できないよ」「でもボールで遊びたいんだ」とやり取りがしばらく続くと、そのうちに鬼ごっこをしていたある子が「ボールを当てられた人が鬼になるのはどう？」と提案しました。「いいね」「やろうやろう」と盛り上がり、鬼ごっこグループとドッチボールグループの子どもたちが一緒に遊びだしました。自分たちで作った新しい遊びで、子どもたちはとても楽しそうです。自分の思いをぶつけながらも、相手の思いも理解し、協力しながら楽しんでいる子どもたちの姿にいよいよ就学するのだなと頼もしさを感じています。

